TADOKU JUNIOR　グリム童話　★★★☆☆ ふつう　292語

The Fox and the Cat

キツネとネコ

Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)（1823年の本）　原文そのまま　朗読：Bob Neufeld

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　「わざなら百も知っている」といばるキツネと、「わたしは一つだけ」と答えるネコ。そこへ猟師と犬がやって来て……。



It happened that the cat met the fox in a forest, and as she thought to herself: ‘He is clever and full of experience, and much esteemed in the world,’ she spoke to him in a friendly way. ‘Good day, dear Mr Fox, how are you? How is all with you? How are you getting on in these hard times?’ The fox, full of all kinds of arrogance, looked at the cat from head to foot, and for a long time did not know whether he would give any answer or not. At last he said: ‘Oh, you wretched beard-cleaner, you piebald fool, you hungry mouse-hunter, what can you be thinking of? Have you the cheek to ask how I am getting on? What have you learnt? How many arts do you understand?’ ‘I understand but one,’ replied the cat, modestly. ‘What art is that?’ asked the fox. ‘When the hounds are following me, I can spring into a tree and save myself.’ ‘Is that all?’ said the fox. ‘I am

master of a hundred arts, and have into the bargain a sackful of cunning. You make me sorry for you; come with me, I will teach you how people get away from the hounds.' Just then came a hunter with four dogs. The cat sprang nimbly up a tree, and sat down at the top of it, where the branches and foliage quite concealed her. 'Open your sack, Mr Fox, open your sack,' cried the cat to him, but the dogs had already seized him, and were holding him fast. 'Ah, Mr Fox,' cried the cat. 'You with your hundred arts are left in the lurch! Had you been able to climb like me, you would not have lost your life.'

あるとき、ネコが森でキツネに会いました。ネコは心の中で「キツネさんはかしこくて、いろいろなことを知っていて、世の中でたいそう尊敬されている」と思ったので、親しげに話しかけました。「こんにちは、キツネさん。ごきげんいかが？お変わりありませんか？このきびしいご時世に、どうやって暮らしていらっしゃいますか？」キツネはとてもいばりやだったので、ネコを頭の先から足の先までじろじろながめ、返事をしてやろうかどうしようかと、長いあいだ考えていました。そしてとうとう言いました。「なんだ、このみすぼらしいひげなめ屋め、まだらもようのまぬけめ、はらぺこのネズミとりめ、何を考えているんだ？このおれに『どうやって暮らしているか』なんて、よくもずうずうしく聞けたものだな。おまえは何を学んできた？わざをいくつ知っている？」「一つしか知りません」とネコはつつましく答えました。「どんなわざだ？」とキツネはたずねました。「猟犬に追いかけられたら、木に飛び上がって助かることができます。」「それだけか？」とキツネは言いました。「おれは百のわざの名人で、おまけに、ずるがしこさをふくろいっぱい持っているんだぞ。おまえがかわいそうになってきた。いっしょに来い。猟犬から逃げる方法を教えてやろう。」ちょうどそのとき、猟師が四ひきの犬を連れてやって来ました。ネコはすばやく木に飛び上がって、てっぺんにすわりました。そこは枝と葉っぱにすっかりかくれて見えませんでした。「ふくろを開けて、キツネさん、ふくろを開けて！」とネコはさけびましたが、犬たちはもうキツネにかみついて、しっかり押さえつけていました。「ああ、キツネさん」とネコはさけびました。「百のわざがあっても、いざというときには役に立たなかったのね！わたしのように木に登れたら、命を落とさずにすんだのに。」

たんご と クイズ キツネとネコ

fox キツネ	**cat** ネコ	**forest** 森
tree 木	**hunter** 猟師	**climb** 登る

Q1 ネコが知っている、たった一つのわざは？

① 速く走ること　② 木に飛び上がること　③ ふくろにかくれること

Q2 「ふくろを開けて、キツネさん」と言ったのはだれ？

① ネコ　② 猟師　③ キツネ

こたえ

Q1 ② 猟犬に追いかけられたら、木に飛び上がって助かることができる、とネコは答えました。

Q2 ① 木の上のネコが、「ずるがしこさのふくろ」を持っているといばっていたキツネによびかけました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #2591（Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)、1823年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Bob Neufeld（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。